



はじめに

『あなたの国の好きなところは何ですか？』

こう聞かれたら、なんと答えるだろうか。

『思いやり』、『日本食』、『温泉』、はたまた『男』、『女』
いろんな答えが返ってくるだろう。

では、同じ質問を外国人に聞いたらどうだろう？

アメリカ、モロッコ、韓国、トルコ・・・

日本の都道府県は47個、世界は思っているよりも広い、
なんて言ったって193か国もあるのだ。

そんなにたくさん国があるのに、全然知らない・・・

少しでも多くの国を知りたい、多くの人と話したい、

そんな思いで「あなたの国の好きなところは何ですか？」を始めました。

最初に言っておきます。

これは彼女が20年10か月いなかった大学3年生の企画です。

優しい目線で見てもらえたら嬉しいです。

彼女は出来ませんでした、僕は世界をちょっと変えることが出来ると思っています。

この本を読み終わった後に、「世界のイメージが変わった」と言ってもらえたらこれ以上の喜びはありません。

こんな僕ですが、この本を読んでくれている人、あなたの世界を少しだけ変えます。

それではこの本の最後でまたお会いしましょう。

自己紹介



本題に入る前の自己紹介をします。

写真は2011年のクリスマスイブにパナマにて

名前は石田直也（いしだなおや）です。

ありきたりな名前なのでフェイスブックには同姓同名が50人以上もいます。

立教大学異文化コミュニケーション学部に通う大学3年生です。

育ちは岐阜県で、今は東京に住んでいます。

ひそかに岐阜県は日本で一番印象の薄い県ではないかと考えています。

ちなみに先日、「岐阜県の場所がどこだか分かる？」と聞いたら、「四国の上でしょ」と言われました。

また岐阜県に琵琶湖があると思っている人も多いんです。それは滋賀県の間違いです。

岐阜県の説明は置いといて、

僕は世界を旅することが大好きです。

毎日が刺激に溢れている。

「今日は何があるだろう？」「誰に会えるだろう？」「どんな景色が広がっているんだろう？」

あのドキドキ感がたまらないんです。

「なんで旅をしているの？」と聞かれたらこう答えます。

「楽しくてやめられないから」です。

今となっては旅にはまっていますが、旅を始めたきっかけは単純です。

「恋愛観察バラエティー あいのり」を見て、大学に入ったら海外に行って恋愛してやる！

こういう不純な思いから旅にはまっていったんです。

よくわからない自己紹介になってしまいましたが簡単に言うと

「岐阜県出身の旅好き大学生」

こんなところですよ。

どんな活動？

2011年7月1日、僕は京都、河原町の高島屋の前に立っていました。
『あなたの国の好きなところを教えてください』というボードを手に持って。

この企画をスタートするまでたくさん考えました。
「人と違うことをしたい」「大学生の間にやれることは全部したい」「世界の良さを伝えたい」
こんな漠然とした思いはあったんですが、具体的な行動なんて思いつくはずありません。

そんな時
日光で出会った台湾人観光客と一緒に観光しました。
彼が別れの時に
「僕は日本が大好きだ。人は優しい、景色はきれい、食べ物は美味しい。今回で4回目だけどこれからもどんどん来るよ」
と。それを聞き本当にうれしくて、心がほっこりしました。

この経験から考えて、『あなたの国の好きなところ』を聞くことを思いつきました。
自分の国の事を考えている時は
「自然と笑顔になる」
そして
「知らないことを知れる」
こう考えてスタートしました。

京都に行った時の話に戻します。
最初は全く聞けませんでした。

緊張して、誰にも声をかけられなかったです。

そんな時期が続きました。

そんな時、ある聞いた人に「聞いてくれてありがとう」と言われました。
えっ！なんでありがとうって言ってくれるの！？ 逆にこっちがありがとうなのに
と疑問に思っていました。

やっていく間に自分の活動に自信をもつことが出来ました。
そして9ヶ月間で世界20ヵ国、350人に好きなところを聞きました。



日本にて

ここからは本編に入ります。僕が9か月で感じたこと、学んだことをしっかりと詰め込みました。
今回はプレ版なので、トルコだけです。

それではまずトルコの簡単な説明から

トルコとは！？

『アジアから旅をしてきた人はトルコはヨーロッパだ。
ヨーロッパから旅してきた人はトルコはアジアだ』とバックパッカーの間では言われている。
トルコはアジアとヨーロッパの間にある大きな国だ。
人口は約7千5百万人。国土は日本の約2倍だ。

そんなトルコを僕は16日間周りました。
大きな国なので、全部は周れなかったが多くの都市に行きました。
その都市ごとに雰囲気が全然違い、人種も違っていました。
例えばヨーロッパに近い都市、イズミルでは西欧系の人がたくさんいる。
グルジアの近郊の都市、トラブゾンではロシア系の人が多く生活している。

アジアとヨーロッパの間にあるので、人種、文化が混ざり合って今のトルコの文化があるんです。

ちなみに僕が
トルコに行った時はオフシーズンだったこともあり、ほとんど一人で旅をしました。
一人だった分、現地のトルコ人と接する機会がたくさん。

40人のトルコ人に『トルコの好きなところ』を聞きました。
本当に様々な答えが出てきました！

トルコ到着

トルコ1日目

ヨルダンの首都アンマンから飛行機でトルコの首都アンカラに到着。
着陸時、飛行機の窓から雪が見えました。
さっきまで寒くなかったのと思いながらトルコの地を踏みしめます。
バックパックを持って、「ここがトルコかあー」と物思いにふけていると
あるトルコ人が声をかけてくれました。
トルコ人：「どこに行きたいんだ？」
僕：「市内の大きなバス停まで」
トルコ人：「あっちのバスだよ」
この会話であることに気づく。
「あれ？さっきまでの人と違う。」
他の中東（ヨルダン、イスラエル、エジプト）で見たアラブ人とは違いました。
同じイスラム国でも人種は別々なんだということを実感。

そんな気づきもあり、親切なトルコ人に助けられ、無事バス停に到着。
バスのチケットを買い、いざバスに乗り込む。
「あれっ！？ 日本のバスとは大きく違うぞ」
トルコのバスでは、飛行機に乗った時のように飲み物を出してくれたり、おやつくれたり、さらに座席の前にはモニターが！
まるで飛行機に乗っているかのような快適さ、そんなバスで5時間。
首都アンカラからカッパドキアの街に到着。

カッパドキアから旅はスタートしました。



【観光業】

トルコを代表する観光地カッパドキアで聞いた答えです。

彼自身も旅行会社で働き、観光業で生活しています。

トルコには数多くの観光地があります。

イスタンブール、カッパドキア、パムッカレ...数えるときりがありません。

僕が紹介したいのは

オルデュニスの海です。この海は僕の人生の中で一番きれいでした。



トルコに行くまではこんなに美しいビーチがあると思っていませんでした。
行って、体感して、その国を知る。風景から感じることもたくさんあります。
ちなみにこのビーチ、夏になるとヌーディストビーチになるらしいです。
僕が行った時はオフシーズンでアヒルしかいませんでしたが。



この写真を見て気づくことはありますか？
トルコ以外の国ではなかったことです。

答えは、
『写真を一緒に撮って』と言われることです。
道を歩いていると、『一緒に写真を撮って』と言われるんです。
一緒に写真を撮るとすごく喜んでくれて、本当にうれしかったです。
なんだか有名人になった気分でした。

そして時には「写真を撮って」と言われます。
そしてその延長でおしゃべりをするというのが定番の流れでした。

「この写真を撮って」から、すごく良い出会いがたくさんありました。



カッパドキアやパムッカレ以外の街へ行くとオフシーズンは極端に観光客が少ない。
そのおかげで僕はドミトリーに一人ということが多々ありました。
16人部屋に一人、8人部屋に一人、といった具合です。

観光客がないので、話し相手は現地のトルコ人。
自分から話し掛けなくても、街を歩いていたらよく声をかけられます。

16人部屋に一人は普通寂しいです。
一人旅を好んでしていますが、寂しい時は本当に寂しいんです。
トルコではそんなこと感じなかったです。
なぜなら、宿の人がずっと話しかけてくれるから。
なぜか「元気ですかー？」という日本語だけ知っていて、会うたびに「元気ですかー？」「元気ですよー！」
という絡みをしていました。そのほかにもBBQやるから一緒にやろう！ とか母親の話とかたくさん話しました。

彼のトルコの好きなのは

【全部】
だそうです。



【全て】

僕はこの答えが「あなたの国の好きなところは何ですか？」の答えの中で一番好きです。
好きなところはいっぱいあって選べない、全部好きなんだ。と

僕も日本のどこが好きなの？とよく聞かれます。
正直日本の良いところ、悪いところ含めて大好きです。
だから、この全部という答えが一番しっくりくるんです。



「サオ」
僕のトルコでの口癖はこれです。

もし現地語が話せれば、現地の人と仲良くなるのは簡単だと思います。
もし自分が英語を話せたとしても、世界は広いです、英語が話せない人はたくさんいます。
共通言語がない中でコミュニケーションをとることも海外を旅していると多くあります。
僕は旅中に一つ気を付けていることがあります。
それは、「ありがとうを現地語で言うこと」です。

最初に言った「サオ」はトルコ語でありがとうを意味します。
トルコで「サオ」と言うと、すごく喜んでくれます。

「現地語でありがとう」
世界中どこでも「センキュー」じゃもったいないです。
これからは現地語でありがとうと言ってみてください。
たったそれだけで、すごく貴重な経験が出来るかもしれません。



「チャイ飲んでけ」
トルコではよくこれを言われてました。
チャイというのはトルコの紅茶です。

街を歩いているだけで、チャイをごちそうしてもらえることが多々ありました。
この写真の人もチャイをごちそうしてくれました。
ちなみに英語は話せません。ずっとトルコ語で話してくれます。



「よく旅先で英語は通じるの？」
と聞かれます。大きな観光地では大体通じます。
一方観光地を少し離れると世界は一変します。
この写真は黒海の街トラブゾンで撮ったんですが、英語を話せる人は少ないです。
でもたくさんの人と話しました。もちろん共通言語なしです。
最初に通じる言語がないことを気にしていました。
でもある時、そんなの気にしても仕方ないと思えるようになりました。

写真のおやつを現地の人にもらって、一緒に食べたときです。
僕が海を見ながらたそがれていたら、前の章で書いた
「写真撮ってくれ」と言われた（正確にはジェスチャー）
その後、おやつをくれて一緒に食べました。
その間一言も英語はしゃべらなかったです。
くりーむしちゅーの有田さんに似ている人がいて、その人がずっとトルコ語で話してくれていま
した。
何を言ってるのかは全く分からなかったし、有田さんも全く理解できなかったはずです。
それにもかかわらず、会話は30分におよびました。
何も理解できなかったけど、すごく楽しい時間でした。
言語が使えない分、お互いジェスチャーを最大限使っていました。
ジェスチャーももちろん効果的ですが、それよりも効果があるのが
握手です。
話が分からなかったとしても、とりあえず握手をする。
ボディータッチは好きな異性だけにするものじゃないってことを学びました。
握手をすることで相手との距離感が一気に縮まります。

最後に一緒に話した有田さんたち





【食べ物】

ハンバーガーショップで出会った女子高校生の2人。
笑顔で質問に答えてくれました。

実はトルコ料理は中華料理、フランス料理と並んで世界三大料理のうちの一つなんです。
トルコ料理といえばケバブ。
ケバブもちろん美味しかったですが、そのほかにもたくさん美味しい料理がありました。
ここで紹介していきます。

まずは定番のケバブ。
地方地方で違った種類のケバブがあります。パンに挟んだものや、ナンに挟んだものなど。
僕はトルコの黒海に面するトラブゾンで食べたらラップケバブが一番美味しかったです。

次の料理、トルコのスープ。
これは「安い、早い、うまい」の三拍子がそろった貧乏旅の味方でした。
またトルコでは基本的にレストランではパンが食べ放題なので、スープだけでお腹いっぱいになるんです。

それでは次はサバサンド
これはイスタンブールの名物です。
焼いたサバをパンに挟むなんて、絶対美味しくない！お米で食べたい！と思っていたのですが、
一度食べたらもう病みつきです。サバは日本で食べるサバと同じ味、それをパンに挟むだけでこんなにうまいなんて。
是非日本でも作ってみたい、と思える絶品です。

最後にトルコの食堂
トルコの食堂は
店の中にガラスケースがあって、各自そこから選ぶというものです。
種類はナスの炒め物、鶏肉と野菜の炒め物、牛肉のステーキ・・・たくさんの種類があり、行くたびに僕を悩ませます。
味も世界三大料理というだけあって、どれも美味しかったです。

そして忘れてはいけないのが、一時期日本で大ブームになった「トルコアイス」です。
トルコアイスの原材料で
伸びるのが日本でも話題となり、一大ブームを巻き起こしました。
もちろん僕もトルコで食べました。本場のトルコアイスは想像していたよりも弾力がありました。

アイスを取ろうとしたらひっくり返されるというお決まりのお約束もやってもらい満足でした。

トルコ料理は総じて、美味しい！

他の中東の国に比べて種類が豊富でした。



【トルコの人】

トルコの人が好きだと彼女は教えてくれました。

僕もトルコに滞在している間、トルコ人の優しさを体験しました。

街で出会ったタクシーのおじさんが

『トルコで地震が起きたときに日本人が助けてくれた。

これは大したものじゃないけ、その時のお返しだ。』

そう言って僕にクッキーを渡してくれた。

彼との出会いは町はずれのタクシー乗り場だった。

僕が道に迷ってしまい、タクシー乗り場の前にあった地図を見ていると

『どこに行きたいんですか？』と声をかけてきた。

会話の流れはこんな感じだ。

僕：空港に行きたいんだ。

トルコ人：タクシーで送ってくよ！

僕：お金がなくてタクシーには乗れないよ。

トルコ人：60トルコリラ（3000円）だよ。

僕：60!? 3か月旅をしていてお金がないんだ。ごめんね。

トルコ人：お金がなくて、困っているのか！ ちょっとここで待ってて！！

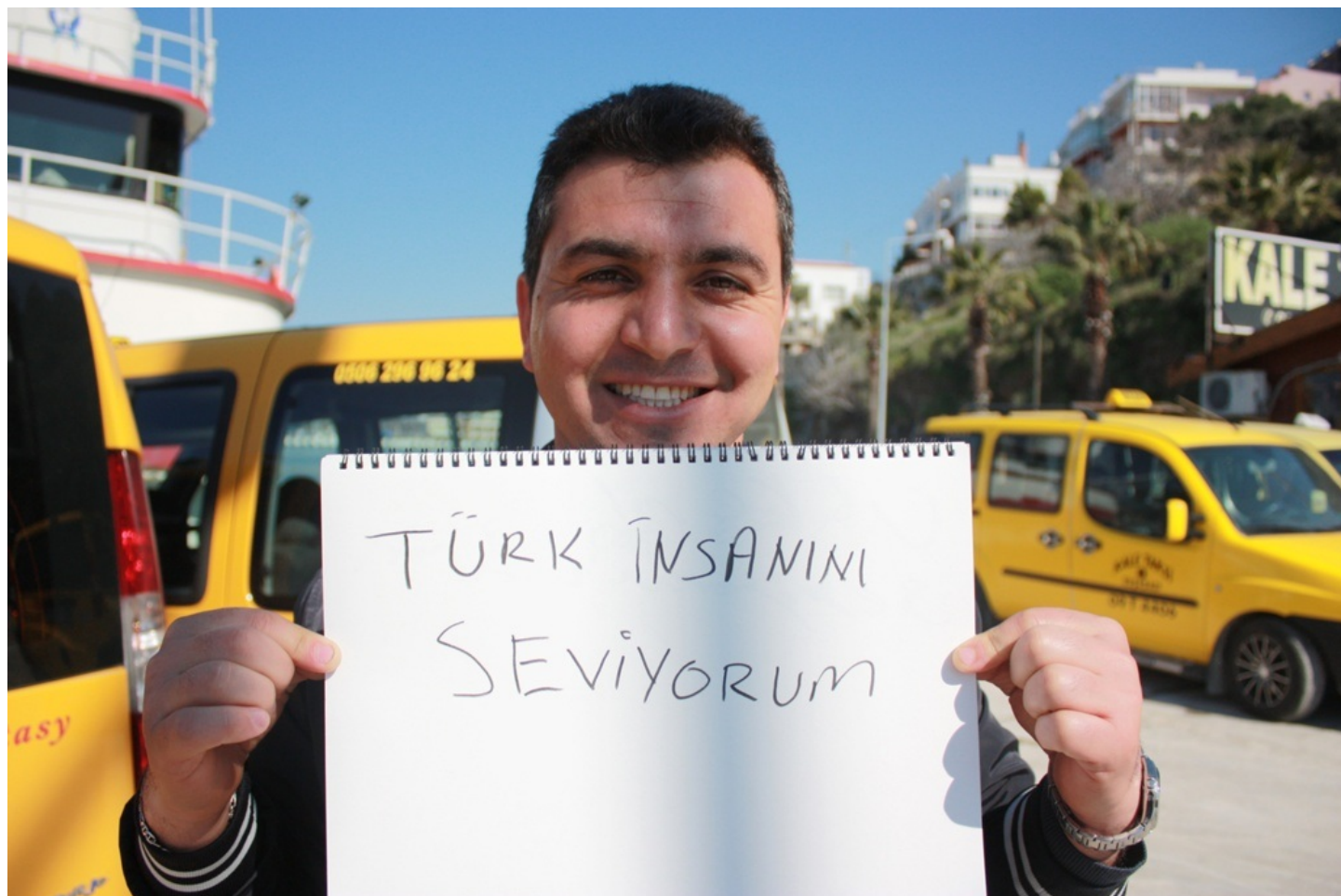
僕：うん

トルコ人：これを受け取って。妻に買ったものだけど、困っている時はお互い様だよ。

とって一番最初の言葉を言われました。

まさか、トルコで地震のことを言われるとは思ってもいなかったです。

さらに、クッキーがもらえるなんて、もっと思ってもみなかったです。



【トルコの人】

彼に聞いたトルコの好きなところも「トルコの人」

そして彼は続けてこう続けました。

「トルコの人には困っている人を放っておけないんだよ」

と。

僕はトルコ人が大好きです。

トルコ人は親日家！？



「トルコ人は親日家」とよく言われます。

僕もそう思います。トルコの人は日本を好意的に思ってくれている。

旅中にそう強く感じました。

トルコも日本と同じで地震が多い国です。

2011年11月23日トルコ東部のワン近郊でマグニチュード7.2の地震が発生。

多数の死者が出る大惨事となった。

この地震に際して被災者支援を行っていた日本人が犠牲になった。

このことをトルコ人に「地震の支援をしてくれて本当にありがとう」と言われた。

トルコと日本の関係は深い。

エルトゥールル号遭難事件。これが日本とトルコの友好関係の始まりと言われている。

これは今から100年以上前の1890年の出来事です。

日本を訪問しに来ていたエルトゥールル号が和歌山県串本町沖で台風に見舞われ沈没してまう。

その時に、現地の日本人が岸にたどり着いたトルコ人を非常に厚く救護をした。

そして生き残ったトルコ人はそのことに大変感動し、母国に帰った後、その話をトルコで広める。

その逸話が今でもトルコでよく知られている。

また日本が助けられたこともある。

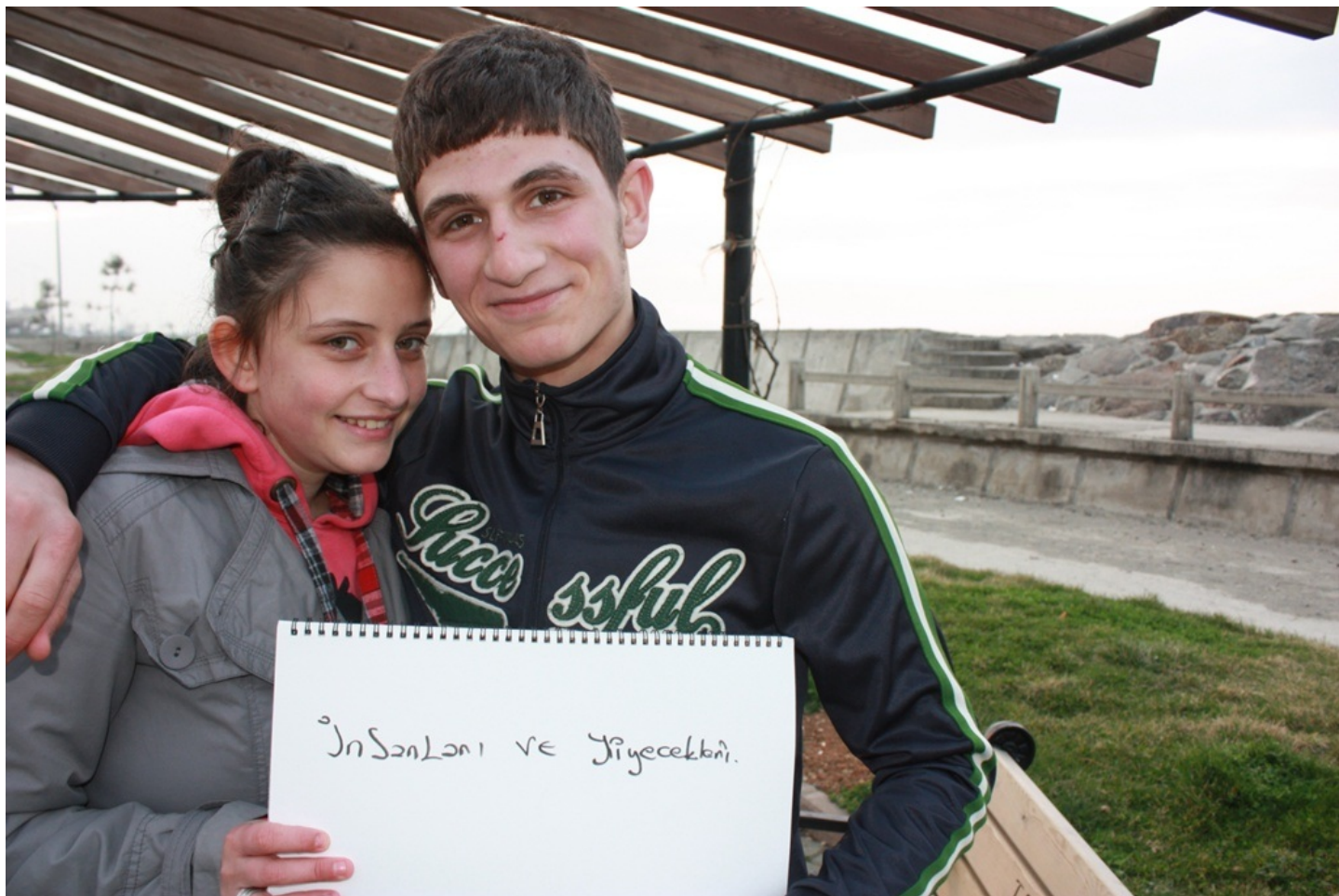
1985年にイランーイラク戦争の渦中にあったイランでイラン上空を飛行する飛行機は無差別に撃ち落とすと急に宣言された。この時日本人は避難することが出来なかった。そんな時にトルコ航空が飛行機を出してくれたおかげで、無事脱出することが出来た。

日本とトルコは歴史的に助け、助け合っているのだ。

こういった歴史から見ても、トルコは親日国家だと言える。

親日国家というよりも、お互いに友好関係にあると言った方が正しいのかもしれない。

こういう歴史を知るっていうのは大切だと思います。



「イスラーム教ってなんか怖いですよね？」

と聞くと

「はい」

と答える人が多いと思う。

僕がアンケートした結果

28人中21人がはいと答えました。

その理由として、テレビなどのメディアで取り上げられることが挙げられます。

ニュースではデモ、テロ、紛争などマイナスイメージな出来事だけが取り上げられます。

ただでさえイスラーム教について知らないのに、

マイナスな情報だけが入ってくると怖いと思ってしまうのも仕方ないと思います。

僕も中東に行くまではそう思っていました。しかし行ってそんな考えは大きく変わりました。

イスラーム教の人は親切で陽気だったんです。

今までは自分とはかなり違う異質な人たちだと考えていました。

実際に会ってみるとそんなことはありません。

自分のイメージを作っていた人達はごく少数で、大部分の人は平和を望む人だったんです。

そんな当たり前のことに気づきました。

現在世界にイスラーム教徒は約16億人いると言われています。

そんなたくさんいるのに、「イスラーム＝怖い」と一括りにしていました。

やっぱりこれは良くないです。

だって「関西人＝面白い」と一括りにするのと同じようなことです。関西人が全員面白いわけではないですよね。

大切なことは「人対人」です。

コミュニケーションでは一人ひとり違うんだと考えることが大切。

偏見を持ってコミュニケーションをとるのはもったいない。

「○○人だから○○だ」

こういうのはやめましょう。

「○○は○○だ」

僕の場合は

「アラブ人だから怖い」

こう思っていました。

「こいつは優しいやつだ」

「あいつは信頼できるな」

といった具合に〇〇には個人を入れましょう。

話してから良いやつ悪いやつかは判断しましょう。



『あなたの国の好きなところは何ですか?』
という質問を世界20か国以上350人に聞いて強く感じることはありません。
それは答える時はみんな笑顔だということです。

高橋優の曲に
「世界の共通言語は英語じゃなくて、笑顔だと思う」
という歌詞がある。本当にそう思う。
実際英語を話せない人なんてたくさんいるし、いた。
お互いに共通言語がなくても、お互いが笑顔になっていた。
言葉は通じなかったけど、笑顔は共通のものだった。

僕が「あなたの国の好きなところ」を聞いた時、
答えてくれた人が、「ありがとう」と笑顔で言ってくれることがたくさんあった。
僕が勝手に聞いているのに、それに対してのありがとう。

正直最初は驚いたが、考えてみると
妙に納得した。
みんな自分の国が大好きなんだ
と。

僕自身日本が大好きだ。
ご飯は美しいし、夜一人で歩けるし、清潔だし、人は親切だし・・・
挙げるときりがない程出てくる。

自分の国が好き

そんな当たり前のことに気付いた。

最後に

今回はお試し版として、トルコ編を書きました。

『あなたの国の好きなところはなんですか?』という質問。

これを世界中の人に聞く度に感じるがあります。

それは

『世界って思ってたよりもちょっと素晴らしい。

日本だって思ってるよりもちょっと素晴らしい。』

ということです。

20か国350人に聞きました。すると各国答えが全然違う。同じ国でも場所が違えば答えも違う。

『各国違うからこそ、面白い』

海外旅行に行った時に、

「〇〇人だから〇〇は嫌だ」

「〇〇よりも日本の方が全然良い」

という人って案外多いと思います。そういう人に僕は言いたいんです。

そんなこと言っても何も変わらないし、楽しい旅行が台無しです。

そんな時に『各国違うからこそ面白い』ということを出してほしいです。

僕は大学で異文化コミュニケーション学を専攻しています。そこで勉強したことですごく印象的なことがあります。

『違う文化を理解することは出来ない。しかし”知る”ことは出来る。』

これを僕の活動を通じて、実感しました。

旅先で理解できないことは多々ありました、。ラテン系の人と待ち合わせをした時に時間に来

なかったり、アラビア系の人とのコミュニケーションの距離が近すぎたこと・・・

でもそれはそれで、素晴らしいんです。時間に遅れるのも、それはゆっくりとした時間の中で生きていること。

アラビア系の人との距離が近いのも、より仲良くなりたいから。

理解は出来なくても知ることは出来る。”そういう考えもあるんだ”

みんながそう考えられたら、世界中の人が仲良くなれると思います。



3か月の旅の最終日イスタンブールで見た夕日です。
旅の終りはホッとするような寂しい気持ちになります。
帰りたいような、もっと続けたいような気持ち。

今回はトルコだけだったので、旅と一緒にような気持ちです。
もっと書きたい。話はいっぱいあります。
なので是非本編でまたお会いしましょう。

それでは最後まで読んでいただいてありがとうございました。

石田直也